

授業概要

江戸後期の漢学者・頼山陽によって記された『日本外史』は源平から徳川氏までの歴史を漢文体で記述された史書であり、幕末期においても歴史読物として広く愛読されてきた。歴史上有名な戦国武将も多く登場するため受講者にとっても親しみやすく、かつ比較的平易な教材である。本講座では漢文訓読の知識を確認しつつ原文を読むことに挑戦するため、国語科教員免許取得を目指す学生にとっても有意義なものとなるだろう。また、毎回頼山陽の孫弟子にあたる西川文仲が詠じた『日本外史楽府』の該当箇所を併せ読むことで散文と韻文の違いを知り、明治期に詠史詩が流行した背景を講義する。

授業計画

第 1 回	ガイダンスー『日本外史』と『日本外史楽府』についてー
第 2 回	雁行乱ー源義家ー
第 3 回	衣錦帰郷ー斎藤実盛ー
第 4 回	栗殻壑ー木曾義仲ー
第 5 回	池月磨墨ー佐々木高綱ー
第 6 回	鶴越ー源義経ー
第 7 回	善走ー北条義時ー
第 8 回	七生殺賊ー楠木正成・正季ー
第 9 回	鼠齧杉根ー北条早雲ー
第 10 回	九灯背旗ー本間某ー
第 11 回	巖島ー毛利元就ー
第 12 回	白布裏面ー上杉謙信ー
第 13 回	土兵刺肋ー明智光秀ー
第 14 回	国家安康ー徳川家康ー
第 15 回	凹処布陣ー真田幸村ー
第 16 回	学期末試験

到達目標

日本外史を精読した後、該当箇所の詠史楽府を鑑賞してさらに理解を深めることを目標とする。また、テキストとして用いるテキスト（頼氏正本）の返り点と高校漢文の定める返り点との違いを確認しつつ、基礎的な知識を習得することも目指す。

履修上の注意

授業は毎回配布するプリントを中心に行うため、授業中のメモや記述が必要となる。授業後にはリアクションコメントを課し、評価の対象とする。

予習・復習

配布資料をもとに講義するので講義内容を必ずメモに取り、筆記試験に備えて整理保存しておくこと。

評価方法

学期末試験70%、受講態度やリアクションコメントの内容30%

テキスト

- 教科書名：
- 著者名：
- 出版社名：
- 出版年 (ISBN)：